年間時間割表

No.	月　日	時　間	科　目	時間数	備　考
	10月24日(水)	14:00～14:50	開講式		
1	〃	15:00～17:00	開講記念講演：ロジスティクスの現状と将来	2	
2	11月　3日(土)	12:45～13:35	トラック業界、協会の現状と課題	1	第1回宿泊研修
3	〃	13:45～15:45	物流業論	2	第1回宿泊研修
4	〃	16:00～18:00	物流政策と法令	2	第1回宿泊研修
5	〃	19:00～21:00	先輩経営者と語る	2	第1回宿泊研修
6	11月　4日(日)	8:00～12:00	本講座の狙い 企業研究の進め方	4	第1回宿泊研修
7	11月　7日(水)	13:30～17:45	修了論文としての自社計画の立て方	4	
8	11月14日(水)	13:30～15:30	荷主動向	2	
9	〃	15:45～17:45	物流市場	2	
10	11月21日(水)	13:30～15:30	静脈物流とリサイクル	2	
11	〃	15:45～17:45	包装	2	
12	11月28日(水)	13:30～15:30	市場戦略	2	
13	〃	15:45～17:45	グループ討議Ⅰ	2	
14	12月　7日(金)	13:00～17:00	ビジネスデータ処理技術(入門編)	4	
15	12月　8日(土)	10:00～17:00	ビジネスデータ処理技術(ベーシックコース)	6	
16	12月12日(水)	13:30～15:30	マーケティングの実際	2	
17	〃	15:45～17:45	特別講義Ⅰ	2	
18	1月　9日(水)	13:30～17:45	ロジスティクス技法	4	
19	1月16日(水)	13:30～15:30	車と環境問題	2	
20	〃	15:45～17:45	安全管理	2	
21	1月23日(水)	13:30～15:30	安全マネジメントによる運輸業経営の効率化	2	
22	〃	15:45～17:45	グループ討議Ⅱ	2	
23	2月13日(水)	13:30～17:45	荷役と保管システム	4	
24	2月20日(水)	13:30～15:30	物流センターの安全	2	
25	〃	15:45～17:45	特別講義Ⅱ	2	

No.	月　日	時　間	科　目	時間数	備　考
26	2月27日(水)	13:30～15:30	労働問題	2	
27	〃	15:45～17:45	グループ討議Ⅲ	2	
28	3月　6日(水)	13:30～17:45	情報ネットワーク	4	
29	4月　3日(水)	13:30～17:45	営業管理	4	
30	4月10日(水)	13:30～17:45	財務会計	4	
31	4月17日(水)	13:30～15:30	顧客管理	2	
32	〃	15:45～17:45	グループ討議Ⅳ	2	
33	4月24日(水)	13:30～15:30	特別講義Ⅲ	2	
34	〃	15:45～17:45	交通行政と物流	2	
35	5月　8日(水)	13:30～17:45	資金管理	4	
36	5月15日(水)	13:30～17:45	輸配送管理	4	
37	5月22日(水)	13:30～15:30	特別講義Ⅳ	2	
38	〃	15:45～17:45	自社計画の策定(補講)	2	
39	6月　1日(土)	13:00～17:35	自社計画の策定(課題別研究)	4	第2回宿泊研修
40	〃	19:00～21:00	(グループ討議)	2	第2回宿泊研修
41	6月　2日(日)	8:00～10:00	(グループ討議)	2	第2回宿泊研修
42	〃	10:00～12:00	グループ別発表	2	第2回宿泊研修
43	6月12日(水)	13:30～17:45	労務管理	4	
44	6月19日(水)	9:00～17:00	企業見学	8	
45	6月26日(水)	13:30～15:30	労働市場	2	
46	〃	15:45～17:45	労働関係法令	2	
47	7月　3日(水)	13:30～15:30	特別講義Ⅴ	2	
48	〃	15:45～17:45	国際物流	2	
49	7月17日(水)	9:00～18:00	自社計画の発表と講評	8	
50	8月　2日(金)	13:40～15:40	資格認定試験		
51	9月　4日(水)	16:00～16:40	修了式		

第 19 期 物流経営士課程 カリキュラム

総計時間数　137 時間（その他ホームスタディ 10 時間）

※都合により、講師を変更する場合があります。

物 流 総 論

我が国の産業構造の中で物流の占める位置と将来展望を学び、視野を広げます。

【到達目標】 自社や自分の進むべき方向性を見極める。

講座名	時間数	科 目 名	主 な 内 容	講 師
物 流 総 論	2	ロジスティクスの現状と将来	○ダイナミックに変貌する物流環境の現状と将来展望	武田正治〔東京都市大学名誉教授〕
	1	トラック業界と協会の現状と課題	○物流の根幹を担うトラック業界とトラック協会の現状と課題	(一社)東京都トラック協会役員
	2	物流政策と法令	○我が国物流政策の最新情報と物流二法等関連法令の基礎	(公社)全日本トラック協会役員
	2	交通行政と物流	○激化する首都東京の交通状況と交通行政の方向性 ○道路交通法等関係法令のポイント	別部鎮雄〔交通問題研究所主宰〕
合計時間数	7			

経営外部環境

トラック運送事業者として必要な物流に関するキーワードを学び、新分野のロジスティクスニーズに対し、いち早く有効な情報を見いだし、ビジネスチャンスをつかむ能力を高めます。

【到達目標】 物流の市場動向と輸配送ニーズを把握し、将来の市場展開の道筋を立てる。

講座名	時間数	科 目 名	主 な 内 容	講 師
外 部 環 境	2	荷主動向	○物流システム、ロジスティクス、SCM への取り組み、3PL、郵政事業への参入	山田　健〔山田経営コンサルティング事務所代表〕
	2	物流業論	○荷主ニーズ変化への対応 ○コア・コンピタンス戦略 ○総合化、専業化等物流事業者の進むべき方向性	山田　健〔山田経営コンサルティング事務所代表〕
	2	物流市場	○産業活動（倉庫・ターミナル・海上・鉄道・航空コンテナなど） ○消費流動（引越・宅配など） ○物流品質 ○据付、組立等加工作業	武田正治〔東京都市大学名誉教授〕
	2	静脈物流とリサイクル	○循環型社会の形成と物流の役割 ○リサイクル法と物流	山根六三郎〔シンク・テック・サービス㈱代表取締役〕
	4	ロジスティクス技法	○在庫管理 ○物流 ABC	内田明美子〔㈱湯浅コンサルティング コンサルタント〕
	2	市場戦略	○物流業におけるマーケティング、マーケット・ニーズの把握 ○商品戦略と商品開発 ○効果的な提案書の作成	重田靖男〔㈱東京ロジスティクス研究所顧問〕
	2	マーケティングの実際	○先進企業の事例	重田靖男〔㈱東京ロジスティクス研究所顧問〕
	2	労働市場	○若年労働力の動向、学生アルバイト・パート・派遣労働者等の労働市場 ○女性ドライバーの展望 ○少子化高齢化、高学歴化、ボーダーレス化への対応	小林弘和〔社会保険労務士〕
	2	車と環境問題	○環境問題の現状 ○自動車エンジンの技術開発の動向 ○新エネルギーの動向	竹中嘉英〔日野自動車㈱主査〕
	2	労働問題	○ドライバー不足とその対応 ○長時間労働改善のための方策 ○採用、定着のための工夫	芝田稔子〔㈱湯浅コンサルティング コンサルタント〕
事故・情報	2	安全マネジメントによる運輸業経営の効率化	○交通事故とコスト、コスト負担、保険 ○リスクマネジメント ○安全への取り組み	安田　務〔予防安全支援センター代表〕
	2	国際物流	○国際物流の動向と環境の変化 ○現地合弁物流企業の現状と展望 ○輸出入代行業務	大出一晴〔㈱日通総合研究所ロジスティクスコンサルティング部シニアコンサルタント〕
ネットワーク	4	情報ネットワーク	○ IT 技術の動向と将来 ○トラック運送事業における IT 活用 ○ IT 導入事例	森高弘純〔近代経営システム研究所 代表〕
合計時間数	30			

経営内部環境

企業における人・物・金の効率的な運用手法を学び、マネジメント能力を高めます。

【到達目標】 営業・財務・労務などの企業管理体制や輸配送・保管・流通加工など物流システムの効率化をデザインする能力を身につける。

講座名	時間数	科 目 名	主 な 内 容	講 師
管理体制の確　立	4	営業管理	○公的データによる計数的な営業戦略の立案、マーケティングリサーチと提案入札、運賃その他の料金折衝と見積書の作成、新規・既存顧客へのアウトソーシング提案書の作り方 ○顧客管理・商品管理	武田正治〔東京都市大学名誉教授〕
	2	顧客管理	○トラック運送業にとって顧客とは「発荷主」だけではない。着荷主を含め物流サービスの展開に関係するすべてを顧客と考える。そして、顧客ごとに管理の方法は異なり、顧客間の関係も考えねばならない。	中田信哉〔神奈川大学名誉教授〕
	4	財務会計	○財務諸表の見方、作り方 ○決算書の分析、借り入れ限度額の判定基準 ○財務分析・コスト管理	林　忠史〔㈲マスエージェント代表取締役〕
	4	資金管理	○資金管理の役割、資金調達と運用、資金管理の分析手法 ○運転資金管理 ○キャッシュフロー計算書の分析	林　忠史〔㈲マスエージェント代表取締役〕
管理体制の確　立	4	労務管理	○トラック運送事業における労務管理の特徴、採用時の適性検査、就業規則労働時間管理、賃金の決め方 ○人材開発体制、勤務評価制度の確立 ○職場環境、労働組合	小林弘和〔社会保険労務士〕
	2	労働関係法令	○労働基準法等労働関係法令	瀧澤　学〔社会保険労務士〕
効率向上と安全対策	4	輸配送管理	○最短ルート（ATIS の活用） ○ドライバーの乗務割りと配車 ○運賃折衝のためのデータ整備（時間・距離・作業分析） ○見積原価計算のシステム化	横山真一郎〔ブレインウェア大学教授〕
	2	包装	○包装技術の意義、包装の種類と技術 ○パレット・コンテナ・オリコンと包装の有機的関係 ○モジュールとユニットロード化 ○環境問題への対応	長谷川淳英〔長谷川技術士事務所技術士〕
	4	荷役と保管システム	○坪貸料率と作業費の設定 ○荷役・運搬の分析と改善方法、保管システムの種類と利害得失 ○倉庫レイアウトの基本、自動化・機械化の手法	関　護〔㈲ロジスティクス総合研究所 代表取締役社長〕
	2	物流センターの安全	○荷役作業の安全対策 ○搬送機械の安全 ○安全トレーニング	泉田道夫〔セーフティサブアセッサー〕
	2	安全管理	○安全の基本、フェールセーフ、安全運転、運行管理 ○交通事故防止と安全教育 ○始業時点検・終業時点検時のドライバーのチェック項目 ○安全管理組織の確立	牧野　肇〔安全管理研究所代表〕
合計時間数	34			

情報処理技術

現代の経営者は、まず計数に敏感でなければなりません。また、IT 化がますます進展する中で IT ツールを駆使する能力が求められます。そこで、基礎的なデータ処理やネットワークの構築、インターネットの活用などに必要な情報処理技術を習得します。

【到達目標】 自社の日常業務をシステム化し、科学的な計数管理体制を確立する。

講座名	時間数	科 目 名	主 な 内 容	講 師
情報処理技術	4	ビジネスデータ処理技術（入門編）	○エクセルによる自社の会計、ドライバー・車両、顧客管理ソフトの作り方 ○パワーポイントによるスライドの作成。 ○インターネットの活用 ○社内ランの構築方法	武田正治〔東京都市大学名誉教授〕 横山真一郎〔ブレインウェア大学教授〕他
	6	ビジネスデータ処理技術（ベーシックコース）		
合計時間数	10			

事 例 研 究

同業者や顧客の先進的な事例を現場で学び、実行力を身につけます。

【到達目標】 自社の将来計画を具体的な数字で計画し、パソコンでシミュレーションし、具体的な数字でモデル化する。

講座名	時間数	科 目 名	主 な 内 容	講 師
事 例 研 究	4	企業研究の進め方	○事例研究の手法	武田正治〔東京都市大学名誉教授〕
	10	資料分析	○自社計画策定のための課題別グループ研究・討議	武田正治〔東京都市大学名誉教授〕 重田靖男〔㈱東京ロジスティクス研究所顧問〕 横山真一郎〔ブレインウェア大学教授〕 中田信哉〔神奈川大学名誉教授〕
	8	企業見学	○先進企業の物流現場	見学先未定
	2	先輩経営者と語る	○先輩経営者の経営理念・人材育成手法等	東ト協会員事業者他
合計時間数	24			

自社将来計画策定

修了論文として、自社の３か年計画を策定します。

【到達目標】 パソコンを用い、シミュレーションモデルで作成した自社３か年計画をパワーポイントで発表する。

講座名	時間数	科 目 名	主 な 内 容	講 師
自社計画策定	6	計画の立て方（補講２時間を含む）	○計画策定の方法	武田正治〔東京都市大学名誉教授〕
	(10)	計画策定	○近未来の自社計画をパソコンで作成（ホームスタディ）	
	8	発表・講評	○自社計画をパワーポイントで発表	武田正治〔東京都市大学名誉教授〕 湯浅和夫〔㈱湯浅コンサルティング 代表取締役社長〕 横山真一郎〔ブレインウェア大学教授〕 中田信哉〔神奈川大学名誉教授〕
合計時間数	14			

課題別討議と発表

合計時間数　８時間

これからの経営者は、顧客に対し、提供サービスの内容や改善策、また、自社の将来構想等を客観的なデータに基づき説明できる能力が求められます。そこで、講義の理解をより確かなものにするとともに、討議や説明能力を身につけるため、授業の節目ごとに小グループ討議を行い、その結果を発表します。

特 別 講 義

経営者としての常識と経営能力を育てるために、トピックなテーマを選んで講義を行います。

講座名	時間数	テ ー マ	講 師
特 別 講 義	10	経済、社会、物流、経営戦略、IT 等の最新情報、実践事例などテーマを選び研修する。５コマ	未定
合計時間数	10		